



平成27年9月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成27年4月30日

上場会社名 アクセルマーク株式会社 上場取引所 東
 コード番号 3624 URL http://www.axelmark.co.jp/
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 尾下 順治
 問合せ先責任者 (役職名) 経営管理部マネージャー (氏名) 朝居 宏文 TEL 03-5354-3351
 四半期報告書提出予定日 平成27年5月15日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無： 有
 四半期決算説明会開催の有無： 有 (証券アナリスト、機関投資家向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成27年9月期第2四半期の連結業績（平成26年10月1日～平成27年3月31日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27年9月期第2四半期	1,668	△2.5	△22	—	△26	—	△49	—
26年9月期第2四半期	1,710	△0.9	67	—	65	—	46	—

(注) 包括利益 27年9月期第2四半期 △49百万円 (—%) 26年9月期第2四半期 46百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
27年9月期第2四半期	△11.24	—
26年9月期第2四半期	10.58	10.36

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
27年9月期第2四半期	1,987	1,536	77.3
26年9月期	2,029	1,585	78.1

(参考) 自己資本 27年9月期第2四半期 1,535百万円 26年9月期 1,585百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
26年9月期	—	0.00	—	0.00	0.00
27年9月期	—	0.00	—	—	—
27年9月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無： 無

3. 平成27年9月期第3四半期（累計）の連結業績予想（平成26年10月1日～平成27年6月30日）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第3四半期(累計)	2,399	△6.7	△35	—	△40	—	△65	—	△14.87

通期の業績予想に代えて翌四半期の業績予想を開示しております。詳細は四半期決算短信（添付資料）3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無
新規 ー社 (社名) ー、除外 ー社 (社名) ー

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	27年9月期2Q	4,370,900株	26年9月期	4,370,900株
② 期末自己株式数	27年9月期2Q	33株	26年9月期	33株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	27年9月期2Q	4,370,867株	26年9月期2Q	4,370,890株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表に対するレビュー手続の実施中です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、当社が現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の業績等は、業況の変化により、上記予想数値と異なる場合があります。なお、業績予想に関する事項は、3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 継続企業の前提に関する重要事象等	4
4. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるモバイルインターネットを取り巻く環境としては、スマートフォンの高機能化と通信環境の快適化が進み、スマートフォン利用者の増加傾向が続いております。平成26年3月末におけるスマートフォンの普及率は54.7%に達し(内閣府消費動向調査)、人々の生活や消費スタイルに新しい変化を及ぼしております。モバイルコンテンツ市場におきましても、平成24年から平成25年にかけて前年比127%である1兆783億円の規模に拡大しており、特にスマートフォン等市場においては前年比224%である8,336億円の規模へ急拡大しております(一般社団法人モバイル・コンテンツ・フォーラム調べ)。

このような市場環境の下、当社は今後もスマートフォンの普及とモバイルコンテンツ市場の拡大は続くと考えており、競争の激化はみられるものの、市場の拡大期に存在する大きな機会をとらえるために、モバイルインターネット領域を主要な事業ドメインと位置付けて事業展開をしております。

モバイルゲーム事業においては、ネイティブゲームのヒット創出を今期の事業戦略に掲げており、平成27年1月に「大乱闘!!ドラゴンパレード」を株式会社セガゲームス セガネットワークス カンパニーと協業でリリースし、3月には「キングダム-英雄の系譜-」を株式会社ディー・エヌ・エーとの協業でリリースいたしました。

また、事業運営の効率化の観点から連結子会社である株式会社Interrapsの開発チーム及び開発ラインを連結子会社であるアクセルゲームスタジオ株式会社に引き継ぎ、経営の一体化を図りました。なお、株式会社Interrapsに関しては平成27年3月に解散を決議しております。

広告事業においては、運営体制を見直し、利益率の改善に注力いたしました。

コンテンツ事業においては、スマートフォン向けコミック時間読みサービス「コミックルーム」の売上拡大に注力いたしました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高1,668,849千円(前年同期比2.5%減)、営業損失は22,705千円(前年同期は67,907千円の営業利益)、経常損失は26,701千円(前年同期は65,558千円の経常利益)となり、四半期純損失は49,127千円(前年同期は46,247千円の四半期純利益)となりました。

各セグメントの業績は、次の通りであります。

(モバイルゲーム事業)

モバイルゲーム事業につきましては、既存のタイトルの売上はライフサイクル等の影響で減収傾向となっております。一方、スマートフォンを対象とした新規ゲームタイトルへの投資を拡大しており、人員の配置転換や不採算タイトルからの撤退により人的リソースをネイティブアプリの開発に集中させました。

当第2四半期においては、平成27年1月に「大乱闘!!ドラゴンパレード」を株式会社セガゲームス セガネットワークス カンパニーと協業でリリースし、3月には「キングダム-英雄の系譜-」を株式会社ディー・エヌ・エーとの協業でリリースいたしました。

以上の結果、当セグメントの売上高は819,508千円(前年同期比14.0%減)、セグメント利益は46,418千円(前年同期比65.1%減)となりました。

(広告事業)

広告事業につきましては、主力であるスマートフォン向けアドネットワーク「ADroute」の収益性を重視し、利益率の改善に努めてまいりました。

また、平成27年3月の単月売上が過去最高になるなど売上の伸長にも注力してまいりました。

以上の結果、当セグメントの売上高は637,260千円(前年同期比31.1%増)、セグメント利益は37,765千円(前年同期比14.1%増)となりました。

(コンテンツ事業)

コンテンツ事業につきましては、スマートフォン向けコミック時間読みサービス「コミックルーム」の売上拡大に注力いたしました。

以上の結果、当セグメントの売上高は211,946千円(前年同期比22.7%減)、セグメント利益は2,938千円(前年同期比83.0%減)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第2四半期連結会計期間末の総資産は、現金及び預金が79,575千円増加したものの、売掛金が25,586千円、のれんが55,257千円、仕掛品が45,328千円減少したこと等により前期末に比べて42,329千円減少し、1,987,004千円となりました。

負債については、買掛金が17,132千円、未払法人税等が24,391千円、その他流動負債が36,234千円減少したものの、短期借入金が85,000千円増加したこと等により前期末に比べて6,053千円増加し、450,127千円となりました。

純資産については、四半期純損失49,127千円の計上等により、前期末に比べて48,383千円減少し、1,536,877千円となりました。

[キャッシュ・フローの状況]

当第2四半期連結会計期間末における「現金及び現金同等物」(以下「資金」といいます。)は、前連結会計年度末に比べて279,575千円増加し、当第2四半期連結会計期間末の資金残高は738,168千円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況と主な内訳は、次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは、1,698千円の使用(前年同期は166,344千円の獲得)となりました。これは主に、のれん償却及び減価償却費等の計上57,882千円があったものの、税金等調整前四半期純損失43,701千円の計上及び法人税等の支払31,036千円等があったことによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは、195,523千円の獲得(前年同期は507,623千円の使用)となりました。これは主に、定期預金の預入による支出412,000千円、貸付けによる支出4,306千円等があったものの、定期預金の払戻による収入612,000千円があったことによるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは、85,750千円の獲得(前年同期は9,275千円の使用)となりました。これは主に、短期借入金の増加85,000千円があったことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

モバイルゲーム事業につきましては、平成27年1月にリリースした「大乱闘!!ドラゴンパレード」の大幅なバージョンアップを5月に予定しており、平成27年3月にリリースした「キングダム-英雄の系譜-」においては、ユーザーに長く楽しんで頂けるためのゲーム内イベント等の施策を積極的に実施していく予定であります。

また、既存のロングヒットタイトルにおいては、ゲームのライフサイクルに合わせ売上は漸減傾向にあるものの、過去の実績から得られた情報を基に運用の効率化を図ることで収益の最大化を目指してまいります。

広告事業につきましては、引き続きスマートフォン向け広告サービスの収益拡大に注力してまいります。

コンテンツ事業につきましては、広告宣伝費の見直しや運営の合理化などにより利益率の改善に努めてまいります。

平成27年9月期の業績予想につきましては、当社グループの事業を取り巻く環境が急速に変化しており、事業の成長速度を予測することが難しいことから、信頼性の高い通期の業績予想を算出することが困難なため、四半期毎に翌四半期の業績予想を公表させていただきます。

平成27年9月期第3四半期連結累計期間業績予想(平成26年10月1日～平成27年6月30日)

売上高	2,399百万円(前年同期比6.7%減)
営業利益	△35百万円(前年同期は54百万円の営業利益)
経常利益	△40百万円(前年同期は51百万円の経常利益)
四半期純利益	△65百万円(前年同期は25百万円の四半期純利益)

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

なお、特定子会社の異動には該当しておりませんが、当第2四半期連結会計期間において、アクセルプライム株式会社を新たに設立したため、連結の範囲に含めております。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 継続企業の前提に関する重要事象等

該当事項はありません。

4. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成26年9月30日)	当第2四半期連結会計期間 (平成27年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,064,593	1,144,168
売掛金	521,045	495,459
仕掛品	45,328	—
貯蔵品	1,480	1,631
その他	56,958	58,656
貸倒引当金	△6,813	△235
流動資産合計	1,682,593	1,699,679
固定資産		
有形固定資産	19,504	17,276
無形固定資産		
のれん	259,291	204,034
その他	3,160	2,224
無形固定資産合計	262,451	206,259
投資その他の資産		
敷金及び保証金	64,784	63,789
その他	0	0
投資その他の資産合計	64,784	63,789
固定資産合計	346,740	287,325
資産合計	2,029,334	1,987,004
負債の部		
流動負債		
買掛金	214,978	197,845
短期借入金	—	85,000
未払法人税等	32,215	7,824
賞与引当金	34,394	33,932
ポイント引当金	10,999	10,272
その他	151,486	115,252
流動負債合計	444,074	450,127
負債合計	444,074	450,127
純資産の部		
株主資本		
資本金	563,900	563,900
資本剰余金	1,116,770	1,116,770
利益剰余金	△95,527	△144,654
自己株式	△25	△25
株主資本合計	1,585,117	1,535,990
新株予約権	142	886
純資産合計	1,585,260	1,536,877
負債純資産合計	2,029,334	1,987,004

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年10月1日 至平成26年3月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年10月1日 至平成27年3月31日)
売上高	1,710,890	1,668,849
売上原価	1,027,757	1,093,707
売上総利益	683,132	575,142
販売費及び一般管理費	615,225	597,847
営業利益又は営業損失(△)	67,907	△22,705
営業外収益		
受取利息	179	580
還付加算金	98	20
その他	78	181
営業外収益合計	355	782
営業外費用		
支払利息	93	8
株式上場関連費用	1,584	2,502
解約違約金	964	—
支払手数料	—	1,500
その他	62	767
営業外費用合計	2,703	4,778
経常利益又は経常損失(△)	65,558	△26,701
特別損失		
訴訟和解金	—	17,000
特別損失合計	—	17,000
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	65,558	△43,701
法人税、住民税及び事業税	19,311	5,426
法人税等合計	19,311	5,426
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益調整前四半期純損失(△)	46,247	△49,127
少数株主利益	—	—
四半期純利益又は四半期純損失(△)	46,247	△49,127

(四半期連結包括利益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年10月1日 至平成26年3月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年10月1日 至平成27年3月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失(△)	46,247	△49,127
その他の包括利益		
その他の包括利益合計	—	—
四半期包括利益	46,247	△49,127
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	46,247	△49,127
少数株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年10月1日 至平成26年3月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年10月1日 至平成27年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	65,558	△43,701
減価償却費	3,383	2,625
のれん償却額	56,757	55,257
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△1,085	△6,577
賞与引当金の増減額(△は減少)	△5,326	△461
ポイント引当金の増減額(△は減少)	△305	△726
受取利息及び受取配当金	△179	△580
支払利息	93	8
訴訟和解金	—	17,000
売上債権の増減額(△は増加)	39,816	25,586
仕入債務の増減額(△は減少)	9,863	△17,132
前払費用の増減額(△は増加)	3,225	△642
たな卸資産の増減額(△は増加)	△7,017	45,178
その他	8,272	△32,292
小計	173,055	43,541
利息及び配当金の受取額	179	596
利息の支払額	△93	△40
法人税等の支払額	△6,797	△31,036
法人税等の還付額	—	2,240
訴訟和解金の支払額	—	△17,000
営業活動によるキャッシュ・フロー	166,344	△1,698
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△606,000	△412,000
定期預金の払戻による収入	100,000	612,000
有形固定資産の取得による支出	△883	△303
無形固定資産の取得による支出	△900	—
貸付けによる支出	—	△4,306
その他	160	134
投資活動によるキャッシュ・フロー	△507,623	195,523
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	△9,250	85,000
新株予約権の発行による収入	—	750
自己株式の取得による支出	△25	—
財務活動によるキャッシュ・フロー	△9,275	85,750
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△350,553	279,575
現金及び現金同等物の期首残高	868,256	458,593
現金及び現金同等物の四半期末残高	517,702	738,168

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自平成25年10月1日至平成26年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	モバイル ゲーム事業	広告事業	コンテンツ 事業	計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額
売上高						
外部顧客への売上高	952,996	483,853	274,040	1,710,890	—	1,710,890
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	2,400	—	2,400	△2,400	—
計	952,996	486,254	274,040	1,713,291	△2,400	1,710,890
セグメント利益	133,148	33,090	17,240	183,479	△115,572	67,907

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内訳(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	183,479
のれんの償却額	△30,259
全社費用(注)	△85,312
四半期連結損益計算書の営業利益	67,907

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない全社管理費用であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第2四半期連結累計期間(自平成26年10月1日至平成27年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	モバイル ゲーム事業	広告事業	コンテンツ 事業	計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額
売上高						
外部顧客への売上高	819,508	637,252	211,946	1,668,707	142	1,668,849
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	8	—	8	△8	—
計	819,508	637,260	211,946	1,668,716	133	1,668,849
セグメント利益又は損 失(△)	46,418	37,765	2,938	87,121	△109,827	△22,705

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内訳（差異調整に関する事項）

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	87,121
のれんの償却額	△30,259
全社費用（注）	△79,567
四半期連結損益計算書の営業損失	△22,705

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない全社管理費用であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
該当事項はありません。